

教育は私学から

- 一人ひとりを大切にする教育
- 生徒の個性を伸ばす教育
- より良い社会人を創る教育

福島 の 私 学

発行者
福島県私立中学高等学校協会
福島市舟場町2-1
福島県庁舟場町分館2F
TEL (024) 522-3252
FAX (024) 521-4463

高校で出会った演劇愛好会が私を変えました



芸人・タレント・女優 白鳥久美子さんに聞く。

プロフィール

白鳥久美子（しらとり くみこ）1981年12月11日生まれ、31歳。福島県郡山市出身。2007年に舞台女優からお笑い芸人に転身。08年よりコンビ「たんぽぽ」として活動。連続テレビ小説『梅ちゃん先生』、ドラマ『パーフェクト・ブルー』などに出演。現在『めちゃ×2イケてるッ!』『サタふく』などにレギュラー出演のほか、多数のバラエティー番組にも出演。映画『男子高校生の日常』（2013年10月12日公開）では文学少女役として出演している。

挫折と葛藤で始まった高校入学の春

白鳥「実は県立の高校、落ちてしまっ

て。日大東北高校は併願で受験した学校

この日は福島市内。この日、白鳥さんは福島のテレビ局での生放送を終え、この取材に駆けつけて下さった。

育会が主流でしたからね。私たち文化系のクラブは、活動を楽しむというより『野球部に負けたくない!』というのが正直な気持ちでした

私学の環境を知るにつれ、演劇の世界を知るにつれ...

白鳥「そんなわけで、入学してから私学の環境を知りました。集団生活ですが、協調性を強要されることはなく、先生方が一人ひとりの個性を見てくれていました。クラスは一つ。何で皆としゃべらないんだ! 等と怒られることもなく、

私は演劇愛好会に没頭できましたね」

公立との違いって、他には?

白鳥「公立ではなかなか費用面で厳しいような、演劇のいろんなセットが充実していたことかな。建築科があり資材が揃っていたので、先生に頼めばもらえたし(笑)。また敷地内に合宿所があって、泊まり込みで活動できたこともあり、充実してましたね。福島じゃなかなか見れないお芝居に、先生が連れて行ってくれたり、夏休みを使って皆で東京にもお芝居を見に行ったり...」

この縁は、ここだけでは終わらなかった。ちょっと話はそれて...

白鳥「先輩たちが、ホント面白かった。実際、放送作家になった人も、照明さんになった人もいて。この先輩たちとは、大人になってからテレビ局で一緒に仕事をするといい機会がありました! その前にも、私がピンの新人芸人時代、テレビに映らない、前説 などやってた頃には応援に来てもらったことも」

高校時代に育んだ演劇の才能と絆。でも大学受験期に入ると国文科が第1志望だったという。

白鳥「『日芸』は競争率が高く、最初から入れるとは思ってなかったわけなんです。高校時代の演劇に助けられ、無事合格できました」

「つらくても我慢できるけど、本当にやりたいんだ」



白鳥さんは、外部からの影響や誰かの勧めではなく、私学の環境で自ら「やりたいこと」を見つけ現在に至っている。そんな彼女から、進路に悩む後輩たちへメッセージが。

白鳥「高校時代や進路決定は大切だけど、それが人生のすべてじゃない。あまり悩み過ぎず、何になりたいか、より何をやりたいか、で、進む道を決めるといいと思うんです。つらくても頑張れる、好きと言えることが「やりたいこと」だと思います」



川村エミコさんと結成した「たんぽぽ」でも活躍中◎ホリプロ

主催：福島県私立中学高等学校協会
参加対象：小学生・中学生及び保護者
教育関係者 その他

福島県私学進学フェア

2013 平成25年10月20日(日) 10:00~16:00
会場：中台福島店(福島市)
10月17日(木)~19日(土)・21日(月)は資料展示のみ

個別相談会

部活動等発表

参考書・問題集の展示

制服展示

グッズプレゼント

高校時代に悩み考えたことは、決して無駄にならず、現在の彼女を支えている。

白鳥「これからも相手(川村エミコ)と一緒にネタをやりたい。私は使ってもら身分なので、いただいた仕事を一生懸命やるだけ。素直に生きていきたいです」

そんな彼女は、これからどこへ行くのだろうか。芸人を極める? タレント? 女優業?

白鳥「中高時代は自分と対峙する時期。でも大人になってから思うと、この頃に落ち込んでいたことは何でもなかったことに気づきました。今の時代、情報量が多いですが、実際に体験してみる、何でもやってみるのが一番。大人になってからでも修正はできます」

白鳥さんから名言が出た。経験からの言葉だけに力強い。